

琉球大学教授職員会ニュース第 116 号

2008 年 9 月 18 日 琉球大学教授職員会 (内線 2023)

E-mail: kyoshoku@eve.u-ryukyu.ac.jp <http://www.cc.u-ryukyu.ac.jp/~kyoshoku/>

「テニユア・トラック制度」で話し合い

夏季休業中、皆さま方におかれましては、何かと御多忙のこととご推察いたします。

さて、前号のニュースでお知らせした、平成 20 年度科学技術振興調整費「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」事業に採択された、琉球大学の「亜熱帯島嶼科学研究拠点を担う若手研究者育成プログラム」について、その後の経緯を御報告いたします(参照:「琉球大学教授職員会ニュース第 115 号」)。

「テニユア・トラック制度」の内容は？

前号でお知らせしましたように、本プログラムの最大の特徴は、「テニユア・トラック制度」を採用する点です。そして、そこに本プログラムにおける最大の問題点が存在します。すなわち、「若手研究者を一定期間、任期付き准教授又は助教として採用し、明確な評価基準を策定の上、外部評価委員を加えた毎年度の評価を行い、任用期間中又は任用期間終了時のテニユア審査において適格者とされた者を教授、准教授又は助教として任用するもの」としながらも、5 年後という期間以外、評価基準や採用講座など、その具体的内容は殆ど明らかになっていません。そこで教授職員会は、この点についての明確な説明を、当局に対して繰り返し求めてきました。

その結果、当局は次のような内容で公募することが明らかになりました。

- ① 募集人数は、助教 10 名程度(そのうち特に優秀と認められる者 2 名程度を准教授)
- ② 所属は、亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構
- ③ 研究分野として、亜熱帯島嶼健康科学分野(感染症学・環境予防医学・形質人類学・感染免疫学)、亜熱帯島嶼生物科学分野(島嶼科学・海洋科学・サンゴ礁科学・保全生物学)、亜熱帯環境科学技術分野(亜熱帯材料学・熱帯作物栽培学・環境防災工学・発酵醸造科学・島嶼エネルギー工学)の 3 分野

- ④ 採用予定期間は、2009 年 1 月 1 日～2013 年 3 月 31 日(単年度更新制)
- ⑤ 給与は、琉球大学職員給与規定に準拠
- ⑥ 採用 3 年後の中間審査及び 5 年後の最終審査において、研究業績が極めて優秀で、且つ今後の教育研究の発展が見込まれると認められる場合は、任期終了後にテニユア・ポストへ採用する。なお、3 年目の中間審査において極めて優秀と認められる場合はテニユア・ポストへ採用されることがある。

このように大まかな概要は明らかになったものの、尚採用講座との対応関係が不明であり、尚且つ労働内容すら明確でない点等々につき、更なる説明を当局に求めてきました。しかしながら、「若手研究者の自立的な研究環境整備」に向けた取り組みである点と、上記④にあるように、来年 1 月 1 日採用のためには、9 月半ばに国際公募をかけなければならないという当局側の強い要請によって、9 月 11 日(木)、三者連絡会と当局側との話し合いが行われ、問題点についての質疑応答がなされました。

「テニユア・ポストは当該学部が責任をもつ」

話し合いでは、まず冒頭で星野会長から、今回のプログラムについて、すでに今年 2 月末に申請を行い、大学当局自身が、今後の人事制度全体に関わる重要事項であることを認識しながら、6 月頃までその情報を組合側に知らせることもなく、また、折衝の途中にもかかわらず、採用の期限があるので公募をかけることに同意して欲しいという、あまりにも乱暴な当局のやり方に対して、強い遺憾の意が示されました。そして、このようなやり方をされると、組合と当局側の信頼関係は築けないことを当局に伝えました。

次に、最大の問題点であるテニユア・ポストについて、折衝の過程では、「5 年後のテニユア・ポストについては、参加部局等も含め

大学全体で用意するとの認識が共有」されており、「テニユア・ポストが増えるとの誤解はない」という回答が、当局からなされていました。この点につき、具体的な意味を質したところ、当局は、理医工農の各学部長を含む本プログラム運営委員会で、「5年後のテニユア・ポストは、各学部で用意する」ということが合意されていると答えました。したがって、教授会でどのような扱いになっているのかは各学部次第であり、少なくとも学部長レベルでは、その旨の合意がなされているということでした。

さらに、研究指導については、大学院担当を考えているというのが、当局側の回答で、その場合の資格審査は各学部教授会が行い、最終的なテニユア・ポストの審査も、各学部教授会が行う予定であるとのこと。そして、仮に本プログラム運営委員会と教授会との判定に齟齬が生じた場合はどうするのか、という質問に対しては、そうならないように優秀な人材を採用するつもりであり、その点について討議はしていないとの回答でした。

「大学病院連携型 高度医療人養成推進事業」

また、この日の話し合いで、当局から「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」に採択されたため、コーディネーターの医師3人を特命教員として採用するとの新たな交渉事項が提示されました。

これも、10月から採用という無謀なスケジュールという点で、「テニユア・トラック制度」と同様の問題でありながら、三者連絡会では附属病院の多忙な労働状況を少しでも改善するためにはやむを得ないとの判断に至り、これについても質疑応答をおこないました。

今後の予定

話し合いの結果、「テニユア・ポストについては学部で責任を持つ」ということが明確になり、時間の制約上やむを得ず、来年1月1日採用に向けた国際公募を開始することに同意しました。

もちろん、正式な交渉・合意には至っておりませんので、今後、本プログラムで採用される職員の就業規定及び「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」のような外部資金を財源とする職員についての就業規定については、引き続き折衝していくことになります。

今回の話し合いで確認された事項を確実に担保できるような合意に達すれば、過半数代表者の選出等の手続に移りますが、それまでに、会員の皆さまから御意見を伺いますので、情報等も含め教授職員会へご連絡ください。

講演会のお知らせ

前号でもお知らせしましたが、全国大学高専教職員組合（以下、全大教と記す）の藤田副委員長と森田書記長を講師に迎えて下記の通り、講演会を開催いたします。琉大教授職員会は全大教に加盟はしておらず、今回は、全大教加盟の琉大附属病院労組との共催でおこなう予定です。

**テーマ：法人化後の大学の状況と行方
-財務諸表の読み方、裁量労働制を中心として-**

**講師：藤田 進（全大教中央執行副委員長）
森田和哉（同 書記長）**

日時：2008年10月2日（木）

17時30分～19時

場所：法文新棟114教室

尚、終了後は懇親会を予定しております。学部を越えての情報交換も含め、この機会に是非ゆんたくしましょう！

また、組合員から次のような講演会の情報も寄せられましたので、お知らせします。

李登輝博士

「学問のすすめと日本文化の特徴」講演会

日時：2008年9月23日（火・秋分の日）

15時～17時（13時30分開場）

場所：沖縄コンベンション劇場

入場料：1,000円（当日2,000円）学生半額

問い合わせ：090-9471-6726（永井）

090-8660-6820（山口）